

平成31年4月18日(木)に全国学力・学習状況調査を南越前町内の小学校6年生78名、中学校3年生86名を対象に行いました。

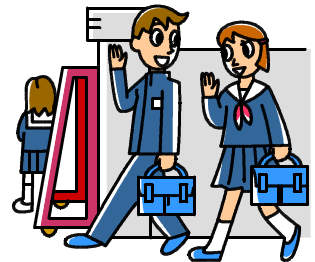
今年度は、小学校において国語と算数の2教科、中学校において国語と数学・英語の3教科での実施でした。なお、これまでA問題(知識)とB問題(活用)とに分けられていた問題が、新学習指導要領の改訂に伴い、基本的な知識と活用力を問う一体化された問題に変わりました。この、調査結果については、昨年までと同様、児童生徒の学習状況の改善に役立てるとともに、教育委員会や学校が保護者や地域の皆様と一体となって協力し合うことで、学習効果を一層高めることを目的として公表いたします。

1. 南越前町全小・中学校の学力調査の結果「福井県・全国との比較」

* 調査の結果は、平均正答率として出ますが、学校の特定や序列化などへの懸念もあり、全国上位の福井県、そして全国との統計的な比較のもと、小学校中学校ごとにまとめて「上回る(+2.5ポイント)」「同程度(-2.5~+2.5ポイント)」「下回る(-2.5ポイント)」と表しています。

*** ±2.5の幅の設定理由***

例年、この調査の本町の小中学校における標準偏差をみると、2.0~3.0で推移していますので、本町では±2.5の幅を判断基準としています。



◆ 小学校(4校)

教科	本町の結果	
	県比較	全国比較
国語	同程度	上回る
算数	上回る	上回る

<良好なところ>

- 国) 場面や状況、目的に応じて、質問を工夫する。
- 国) 話しの意図を捉え、自分の考えをまとめる。
- 算) 図形の性質や構成要素に着目し、いろいろな図形の中から同じ性質のものを選択する。
- 算) 資料を読み取り、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述する。

<課題が残るところ>

- 国) 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。(友達にかぎらず・かんしんを持ってもらいたい)
- 算) 2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍か読み取る。

◆ 中学校(3校)

教科	本町の結果	
	県比較	全国比較
国語	上回る	上回る
数学	上回る	上回る
英語	同程度	上回る

<良好なところ>

- 国) 話し合いでの発言内容について説明したものとして適切なものを選択する。
- 国) 話や文章の内容から省略された語について正しく表現する。
- 数) 簡単な連立二元一次方程式を解く。
- 数) 問題解決の方法を数学的な用語を用いて表現する。
- 数) 変形式 $6n+9=3(2n+3)$ にする理由を捉える。
- 英) 話の内容や書き手の意見を捉え、自分の考えをまとめる。

<課題が残るところ>


- 英) 聞いて把握した内容について、適切に応じる。



なお、今年度より新学習指導要領・外国語科の目標である「外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成する」という目標を見据え、中学校の英語調査において「話すこと」の調査が実施されましたが、その結果はここに含まれておらず、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計で集計されています。

2. 児童生徒質問紙から「この町の児童・生徒の様子や学習状況」

◆ 小学生

良好な点	課題点
<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎日、決まった時間に起き、朝ご飯を食べている。 ○ 自分には良いところがあると思っている。 ○ 夢や目標を持っている。 ○ みんなで協力して何かに取り組んでいる。 ○ 計画的に家庭学習に取り組んでいる。 ○ 学級での話し合いを通じて、自分の考えを深めたり広げたりしている。 ○ 自分の考えが伝わるように資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。 ○ 課題の解決に向けて、自分で考え、進んで取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> △ 授業以外の学習時間（家庭での学習）がやや少ない。 △ 読書をしたり新聞を読んだりする機会が少ない。 

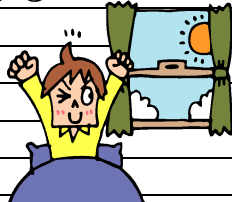
◆ 中学生

良好な点	課題点
<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎日、決まった時間に起き、朝ご飯を食べている。 ○ 自分には良いところがあると思っている。 ○ 学級での話し合いを通じて、自分の考えを深めたり広げたりしている。 ○ 課題の解決に向けて、自分で考え、取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> △ 家庭では、あまり計画的に学習に取り組むことができない。 △ 読書をしたり新聞を読んだりする機会が少ない。 △ 自分の考えが伝わるように資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表することを苦手としている。

3. 学力調査と児童生徒質問紙の関連「こんな児童・生徒は成績が良かった」

<「当てはまる」と答えた児童生徒と、「当てはまらない」と答えた児童生徒の平均正答率の差 %>

質問項目	%
自分には良いところがあると思う	6. 1
様々な活動にみんなで協力し、充実感を味わっている	5. 3
朝食を毎日食べている	44. 3
毎日、よく似た時間に寝ている	21. 7
よく似た時間に起きています	36. 0
家で、計画を立てて勉強している	15. 2
普段、授業以外に一時間以上学習している	10. 5
普段、30分以上読書をしている	8. 1
これまで授業で週一回以上ICTを使用した	21. 5
話し合う活動では、自分の考えを深めたり広げたりしている	9. 6
資料や文章、話の組み立てを工夫して発表している	6. 1



4. 今後に向けて

【 家庭で 】

- * 規則正しい生活習慣が身に付いている子は学力も高い傾向にあり、学習に対する取り組み方や集中力の持続といった点に影響している事が考えられます。「決まった時間に起きて」「朝ご飯をしっかり食べ」生活のリズムを整えて学習に取り組む準備をしましょう。
- * 授業の予習・復習を大切にするとともに、計画的に学習を進める習慣を身に付けましょう。
- * 新聞や本に親しむ時間を確保し、その内容について話し合ってみましょう。

【 学校で 】

- * 様々な学校教育の場面で、子どもたちが自己有用感を感じられるような手立てを考えることや子どもたちに自信を付けさせるような機会を増やしていく。
- * 進んで課題を見つけ、学習に取り組んだり友達の意見を共有し自らの考えをさらに発展させたりするような主体的に取り組める学習形態の工夫をする。
- * 話し合い活動のなかで、自らの意見の理由を述べたり考え方の説明をしったりする活動を意図的・継続的に取り入れ、文章を書いたり構成したりする力を身に付けていく。

【 地域で 】

- * 「子どもは、地域で育つ」といわれるように大人と子どもまでがふれ合える機会を増やし、「自己肯定感」「自己有用感」を味わえるような積極的な関わり方や優しい言葉かけをお願いします。

